

## 第 3 回 平 群 町 地 域 公 共 交 通 会 議

### 「コミュニティバス現地視察結果報告」

平成 2 2 年 1 0 月 1 5 日

平群町地域公共交通会議 事務局

地域公共交通に関する事例調査（ヒアリング）結果一覧

ヒアリング先	豊岡市	吉野町	
ヒアリング日	平成 22 年 8 月 13 日(金)	平成 22 年 8 月 12 日(木)	
出席者	豊岡市：谷口、宇野 平群町：下中、西本、西谷、能地 国際航業：山崎、板原	吉野町：上林、戸毛 平群町：西谷、能地、松村、亀井 国際航業：板原、船木	
バス路線の経緯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全但バス、イナカー、コバスの3種類のバス路線運用。 全但バス：主要地域を結ぶ幹線バス。 イナカー：主要地域からさらに奥部の集落を結ぶバス。 コバス：市街地部を回遊するバス。(平成16年度から運行)</li> <li>・イナカー導入時：子供にも我慢、老人にも我慢を求めた。また、学校にも我慢を求めた。</li> <li>・市街地の人々がバスに乗ることによって、末端地域の人を支えることができる。(市民説明)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成15年度：町内小学校6校を2校に統廃合。 遠方の生徒への対応策としてスクールバス(7台)を導入。</li> <li>・平成15年度：奈良交通の路線バス4路線が撤退したためコミュニティバスの運行を開始。</li> </ul>	
概要	運用形態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市営バス(イナカー)は、白ナンバーである。(78条の但し書きにより、許可を取得) 車両は道路運送法最低限の施設を設置する程度とした</li> <li>・バスの運行は市が全但バスに委託している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バス(スクールバス、コミュニティバス)：12台所有。</li> <li>・スクールバスをコミュニティバスにも運用。</li> </ul>
	料金について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イナカー：定期券利用はゼロ。回数券利用が多い。</li> <li>・コバス：乗車料金1回100円。(お年寄りが子供の子守に使っていると聞く)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当初：100円、その後200円に値上げ。</li> <li>・値上げにより、一時期約3万人の利用者数は2割減。近年の利用者数は値上げ前の水準。</li> </ul>
	運行について	<ul style="list-style-type: none"> <li>(イナカーについて)</li> <li>・ルート：もともとの路線バスルート基本。車両の小型化によるルートの見直し等を実施。</li> <li>・バスルートの設定：住民説明会を各地域4回実施。</li> <li>・全但バスとスクールバスのダイヤが合わない。</li> <li>・児童・生徒の通学用に供されている路線について最低運行回数を設定。 小学校・幼稚園：4往復8便(登校1便、下校3便)、中学校：5往復10便(登校1便、下校4便)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の登下校時間にコミュニティバスのダイヤを合わせるのは困難。</li> <li>・学校の登下校時間のバス：小中学生優先、バスによっては一般客が利用不可。</li> <li>・小中学生と一般客の混乗について：当初は不安な意見もあったが、概ね好評。 (地域住民、お年寄り和小中学生の交流がアップなどの効果あり)</li> </ul>
	利用促進について	<ul style="list-style-type: none"> <li>e通勤：コバス利用</li> <li>・市役所職員説明会：4回開催(市長説明)</li> <li>・職員への強制はなし。(学校の先生、消防、保育園、公民館主事は対象外)</li> <li>・e通勤に伴い、時差出勤制度を今年9月から実施予定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民向け広報の充実。</li> <li>・利用者数の少ない路線：デマンド方式を導入。(平成22年3月から)</li> </ul>
	増便等について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バス車両の購入費(手すり等の取付費込み) リエッセ、ポンチョ：1,600万円 コースター：1,000万円 ハイエース：400万円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今以上の増車、増便等(休日運行含む)：財政的に厳しい。</li> <li>・予備車両の導入：コスト的にはデメリット、運行管理上はメリット大。</li> </ul>
今後の運行・評価について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市負担上限額：運賃収入の3倍と設定。市民がバスを利用すれば市の負担は増やず。市民の利用がなければ、バスのサービスが低下し、廃止することも検討する。</li> <li>・最低需要基準：市としての宣言。国の補助がなくなっても市は基準を満たせばバスを残す。 1(人超/便)を基準としたが、基準値が甘かったと現在は感じている。</li> </ul>		
その他(事例紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティバスの運行を自治会に委託(淡路市、宍粟市)</li> <li>・市街地はバス、遠方は乗合タクシーを利用していると聞く。(経費削減のためのデマンド)</li> <li>・高齢者フリーパス券(高齢者等優待乗車カード：全線乗り放題)の販売(朝来市)</li> <li>・自治体職員のマイカー手当の削減、駐車場補助の削減などの実施。</li> </ul>		

【参考資料】

豊岡市

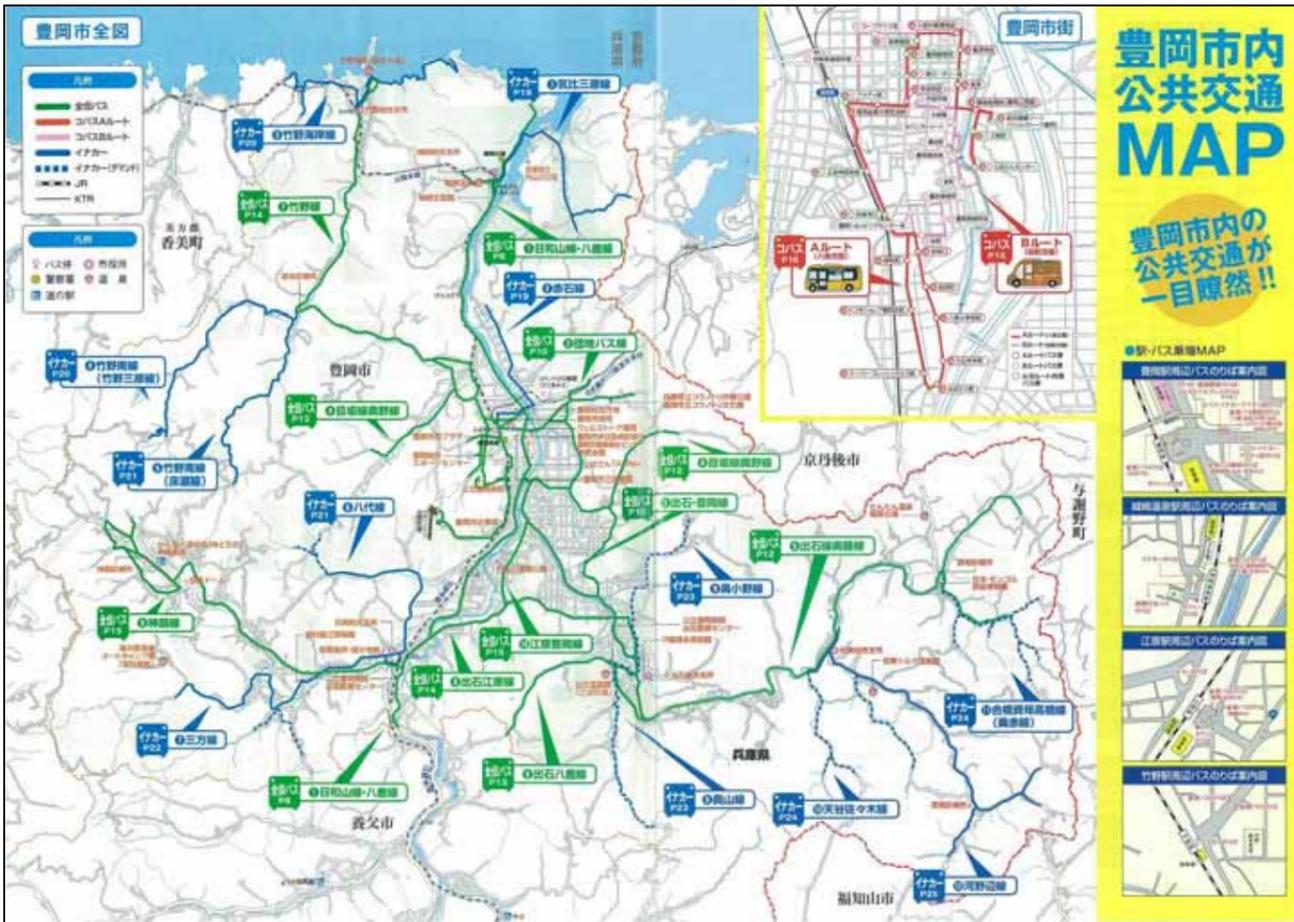
【コバス】



【イナカー】



【公共交通マップ】



吉野町

【スマイルバス運行系統図】

